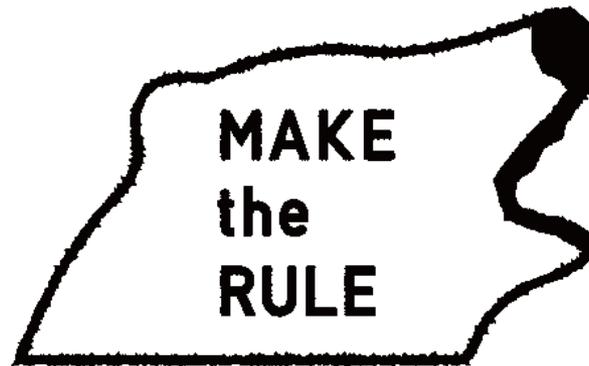


ーコペンハーゲン会議(COP15/COPMOP5)報告会ー

COP15 ～会議の現場で起こったこと



www.maketherule.jp

平田仁子
気候ネットワーク 東京事務所長
khirata@kiconet.org

2010.1.21

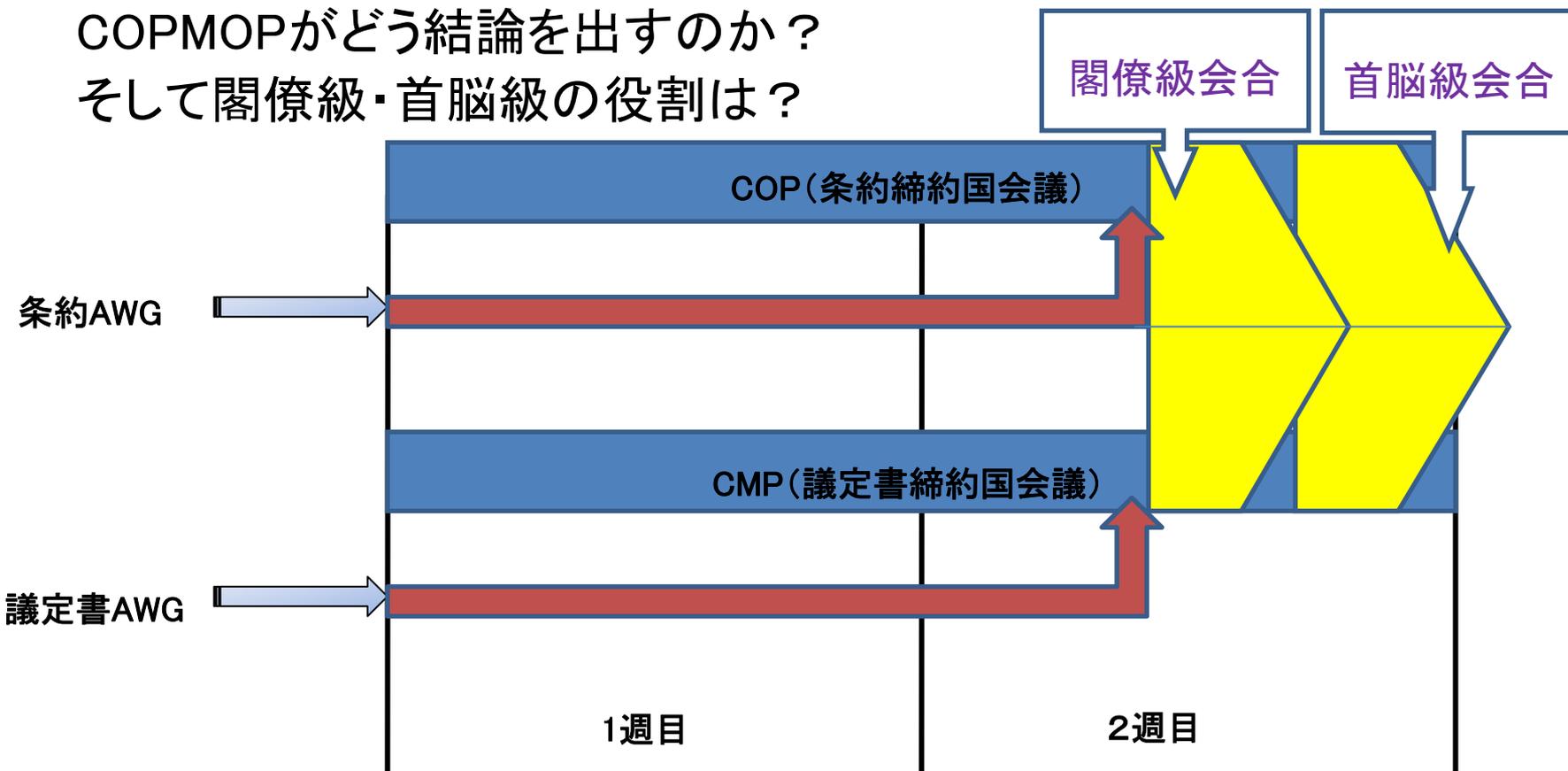
本日の内容

1. 予測できない2週間の交渉プロセス
2. 2つの作業部会における交渉
3. 最後のDeal(合意)に向けた動き
4. リーダーシップはどこに？
5. 問われる「市民参加」
6. 今回得られた教訓と今後への展望

1. 予測できない2週間の交渉プロセス

コペンハーゲン会議のプロセス

2つのAWG がそれぞれに、COP/CMPに作業結果を報告し、
COPMOPがどう結論を出すのか？
そして閣僚級・首脳級の役割は？



2. 二つの作業部会での交渉

次期枠組みを交渉する2つのAWGが開催

①京都議定書特別作業部会（AWGKP）（第10回）

先進国の次の削減目標を交渉

「附属書Bの改正議論を第1約束期間が終了する少なくとも7年前から始める」と京都議定書で規定（3条9項）

②条約特別作業部会（第8回）

バリ行動計画（COP13決定）に基づき下記の要素を交渉

1. 長期的な道筋・ビジョン
- 2 - 1. 先進国の排出削減
- 2 - 2. 主要途上国の排出削減・抑制
3. 温暖化による悪影響への対応（適応対策）
4. 技術の移転
5. 温暖化対策、被害対策にかかる費用への資金の捻出

2. 二つの作業部会での交渉

- **LCA** (170ページ強の交渉文書を土台に)

- 個々のコンタクトグループ/サブ・グループで、テキストに基づいて交渉
- 細部は議論されども、ほとんど本格交渉にならず

15日(水)、 “完了していない作業” として、COP15へ各グループの文書をパッケージでCOPへ送ることを合意

- **KP** (各国提案のオプションを土台に)

- 先進国の削減、対象ガス、LULUCF、メカニズム等
- 議論は繰り返されるばかり

16日(木)、ドラフトレポートを報告。未解決の問題について、さらなる作業が必要なことを認め、CMPへ今後の進め方の検討を委ねた

3. 最後のDeal(合意)へ向けた動き

• 12/8

ガーディアン紙に合意案（COP決議案、11/27付）がリーク

- 実際に存在していたようだが、デンマーク政府は否定
- 条約事務局長は、一部の国に見せたと半分認めた
- CMP決議も存在したが、途上国に否定された？
- プロセスが問題に →闇に消えた

• 12/11

AWGLCAの議長ペーパー（Outcome of the LCA）が公表

- 議定書の第2約束期間があることを想定して、策定
- LCAでドラフティング作業が行われている最中に公表。
- プロセスに各国から異論も
- 議長はこのペーパーを基礎に議論は出来ず、10つの交渉文書をCOPへ送った

プロセスの透明性と参加が問題に

• BASICテキスト



3. 最後のDeal(合意)へ向けた動き

議長ペーパーの内容

長期ビジョン	<ul style="list-style-type: none">・気温上昇は産業革命前のレベルから[2°C][1.5°C]・世界全体の排出を少なくとも2050年に90年比[50][85][95]%削減。可能な限り早くピークを迎える
緩和	<ul style="list-style-type: none">・先進国は、2020年に90年比[25~40][30のオーダー][40][45]%削減・京都議定書締約国は第2約束期間の目標を採択、それ以外の先進国は、合意された目標を設定する・途上国は、自然体ケースから15~30%削減を目指して自主的な緩和行動をとる。NAMAを[自主的行動の中に][登録簿に][国家計画の]記録する。国別報告書を毎[X]年に提出
適応	適応[枠組み][プログラム]を創設
資金	[X]機関を[創設][定義]、基金を創設/資金窓口を持った基金を創設、先進国は2010~2012年に[X]の額の資金を宣誓する
技術移転	技術メカニズムを創設。技術の[執行機関][技術行動委員会]及び、協議ネットワークを公正

更なる作業のアレンジや時間枠については検討するとしている。

3. 最後のDeal(合意)へ向けた動き

- 12/16 COP/CMP議長はAWGを受け、2つの文書の作成を示唆したが、新しい文書を作ることへの合意が得られず進め方についての非公式協議が長らく継続
- 12/17夜 COP/CMPにそれぞれ、結果を出すためのコンタクトグループが形成され、各グループで、ドラフティング作業を開始することが決定。
(本格交渉はここでスタートしたかのようにだった！)
- 12/18未明 COP/CMPのコンタクトグループで交渉経過報告。一部のサブ・グループでは、これまでにない歩み寄り。閣僚級で判断すべき事項についての報告もあった。報告を経て、「議長の友」を持つことによりやく合意。

そして、首脳会合が開始、「コペンハーゲン合意」を策定

18日未明までの交渉とのつながりが見えないままに、最終日の全体会へ…。

4. リーダーシップはどこに？

- 通常より早く到着した環境大臣

- 1週目と2週目の間の日曜日に、インフォーマル閣僚会議が開催
- 2週目の月曜日からインフォーマル全体会で、大臣らがテーブルに
- その間にも、AWGの作業は続いていた。大臣たちに十分な現状のインプットが出来ていない

- 大臣から首脳へと続く長い演説

- ほとんど誰も聞いていなかった。多くの首脳が駆け付けた割に、その機会を有効に機能させることができなかった。

- 混乱の中で、議長がヘテゴー大臣からラスムーセン首相へ

- デンマーク政府のリーダーシップへの疑問符
- 戦略のないまま首脳を集めてしまった
- AWG→COP/CMP→大臣級→首脳級の橋渡しの失敗

5. 問われる市民参加

- 2週目より入場に長蛇の列
 - 朝8時～夕方6時まで、登録手続きのために外で並んでも入れず、
 - 翌朝5時間並んだが、入場制限が始まり入れないままに

- 2週目火曜日よりNGO（産業界・労働界等含め）のみ入場制限

火曜日 9000人（各団体に4人に1人の割合で第2バッチが配布）

水曜日 9000人

木曜日 90人（日本NGO2名＋政府代表団入り2人のみ）

金曜日 90人

サイドイベントの相次ぐキャンセル
ブースの閉鎖

市民の締め出しは、今後の市民参加の確保に
大きな問題を残した。



6. 今回得られた教訓と今後への展望

【教訓】

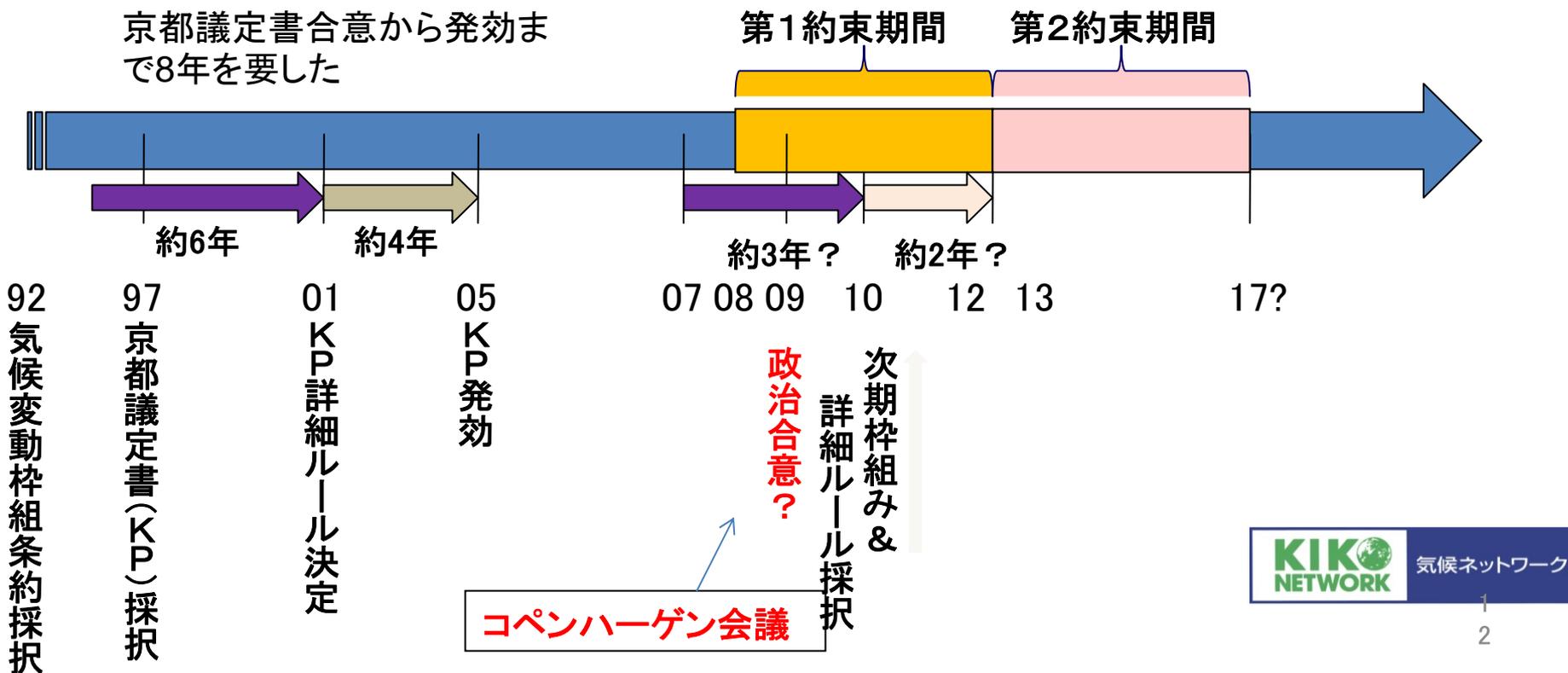
- 信頼の持てるプロセスを構築すること
- それに関するコンサルテーションを事前に十分行うこと
- 閣僚級会合・首脳級会合の役割を明確にしておくこと

【今後への展望】

- COP/CMPの最終日未明にたどりついた交渉状況を明確にし、AWGの議論は、そこに積み上げていくこと
- コペンハーゲン合意とAWGの議論とをうまく連結させ、一層の内容の効果を図っていくこと
- 首脳級を開催する場合には、会場セキュリティを含めた準備を入念にすること

6. 今回得られた教訓と今後への展望

- 第1約束期間と第2約束期間の間に空白を作らないために…。
一層スケジュールはタイトに
メキシコ会議には、法的合意の実現が必要



新しいルールで、
地球をクールに。

ご清聴ありがとうございました。

MAKE the RULE

エコがブームになってずいぶんたちますが、
CO₂はあいかわらず増えつづけ、地球温暖化の
影響は大きくなってきています。ところが日本には、
CO₂を減らすためのルールがありません。
ひとりひとりの心がけにも限界があります。
いま求められているのは、社会のしくみを変えて
いくこと。そのためには、CO₂を確実に
減らしていくための新しいルールが必要です。
この星で、すべてのひとが幸せに生きつづけるために。
あなたの声とアクションが、明日を変える力になります。

www.maketherule.jp